



本庄市議会だより

写真タイトル

「木々の隙間から」

撮影者：佐藤 俊さん

撮影場所：宥勝寺

今年度は表紙写真の公募を行っています。
詳しくは裏面及びホームページをご覧ください。

おもな内容

	ページ
○第3回定例会の概要、おもな案件①	2
○提出議案とその結果	3
○市政に対する一般質問	4～10
○おもな案件②、委員会の動き、決算特別委員会の設置等 ..	10～11
○表紙写真の募集、12月定例会の予定等	12



令和5年第3回定例会(9月定例会)を、8月25日(金)から9月21日(木)までの28日間の会期で開催しました。
 今定例会には、市長から条例の一部改正、令和5年度補正予算など9議案が提出され、さらに最終日には市長から令和4年度決算認定の6議案の提出がありました。また、議員からは条例の一部改正、意見書の2議案の提出がありました。
 慎重審議の結果、令和4年度決算認定の6議案を閉会中の継続審査とし、それ以外の議案を原案のとおり可決しました。

令和5年第3回定例会 提出議案とその結果

(賛成:○ 反対:× 棄権:棄 欠席:欠)

議案番号	件名	議決結果	議員名																				
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
第52号議案	本庄市空き家等の適正管理に関する条例及び本庄市空家等対策協議会条例の一部を改正する条例 ・空家等対策の推進に関する特別措置法の一部改正に伴う所要の改正	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第53号議案	工事請負契約の変更契約の締結について【P2】	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第54号議案	市道路線の廃止について【P2】	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第55号議案	市道路線の認定について【P10】	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第56号議案	令和5年度本庄市一般会計補正予算(第4号)【P10】	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第57号議案	令和5年度本庄市国民健康保険特別会計補正予算(第1号) ・出産した被保険者に係る国民健康保険税の減額措置に対応するため、システム改修に係る経費の追加など、総計で歳入歳出それぞれ814万8000円を減額し、総額を歳入歳出それぞれ79億7644万7000円とするもの	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第58号議案	令和5年度本庄市介護保険特別会計補正予算(第1号) ・令和4年度の実績に基づく国・県等への返還金など、歳入歳出それぞれ1億2540万6000円を追加し、総額を歳入歳出それぞれ67億2853万3000円とするもの	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第59号議案	令和5年度本庄市水道事業会計補正予算(第1号) ・人事異動等に伴う給与費の補正のほか、配水管布設替の実施設計業務委託や道路改良事業の進捗に伴う配水管布設替工事を行うための資本的支出の補正などとするもの	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第60号議案	令和5年度本庄市下水道事業会計補正予算(第1号) ・人事異動等に伴う給与費の補正のほか、埼玉県に支払う流域下水道維持管理負担金の改定が想定され、下水道事業審議会の委員報酬を追加するため、収益的支出の補正などとするもの	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第61号追加議案	令和4年度本庄市一般会計歳入歳出決算認定について【P10】	継続審査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第62号追加議案	令和4年度本庄市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について 【歳入決算額:82億1446万2211円、歳出決算額:80億3323万2331円】	継続審査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第63号追加議案	令和4年度本庄市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について 【歳入決算額:63億5476万768円、歳出決算額:63億1915万9740円】	継続審査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第64号追加議案	令和4年度本庄市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について 【歳入決算額:9億7484万9760円、歳出決算額:9億7456万1111円】	継続審査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第65号追加議案	令和4年度本庄市水道事業会計の利益の処分及び決算認定について 【収益的収入決算額:16億3246万7103円、収益的支出決算額:15億331万5722円、資本的収入決算額:1億7831万8350円、資本的支出決算額:8億8455万194円】	継続審査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第66号追加議案	令和4年度本庄市下水道事業会計の利益の処分及び決算認定について 【収益的収入決算額:20億4565万3409円、収益的支出決算額:18億4252万2037円、資本的収入決算額:13億137万9580円、資本的支出決算額:16億3911万8806円】	継続審査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
議員提出議案	議第4号議案 本庄市議会基本条例の一部を改正する条例【P11】	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
議員提出議案	議第5号議案 発達障害児に対する補助制度の見直しを求める意見書【P11】	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

市長提出議案

議長は可否同数の場合のみ採決に参加します。

おもな案件①

◇工事請負契約の変更契約の締結について
 令和4年9月21日に議決された本庄市庁舎トイレ改修工事請負契約について、本庄市建設工事請負契約約款第26条第6項の適用等による請負代金額の変更に伴い、変更契約をすることについて、本庄市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定により、議会の議決を求めるものです。



改修工事後のトイレ

◇市道路線の廃止について
 道路法第10条の規定に基づき、払い下げにより廃止するもの2件、開発行為に伴い廃止するもの6件など計10件について、市道路線を廃止するものです。

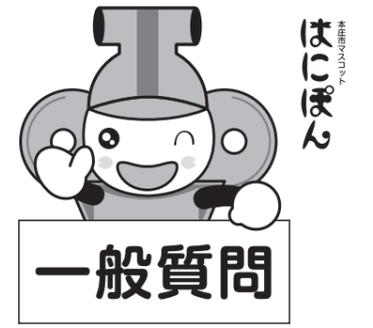
9月定例会のうき

- 8月25日 本会議
 - ▼会議録署名議員の指名
 - ▼会期の決定、諸報告
 - ▼市長提出議案の上程、説明
- 8月29日 本会議
 - ▼請願の常任委員会付託
 - ▼議案に対する質疑
 - ▼議案の常任委員会付託
- 8月31日 常任委員会
 - ▼総務常任委員会
 - ▼厚生文教常任委員会
- 9月4日 常任委員会
 - ▼建設産業常任委員会
- 9月6日 特別委員会
 - ▼17号バイパス及び幹線道路整備対策特別委員会
- 9月7日 特別委員会
 - ▼交通政策及び観光政策特別委員会
- 9月14・15・19日 本会議
 - ▼一般質問
- 9月21日 本会議
 - ▼諸報告
 - ▼請願の常任委員長報告、採決
 - ▼各特別委員長報告、採決
 - ▼各常任委員長報告、採決
 - ▼市長提出追加議案の上程、説明
 - ▼監査報告
 - ▼市長提出追加議案に対する質疑
 - ▼決算特別委員会の設置及び追加議案の特別委員会付託
 - ▼議員提出議案の上程、採決
 - ▼議員派遣の件
 - ▼閉会中の継続審査



一般質問とは、市の行政事務の状況や将来の方針などをただしたり、報告を求めたりするもので、定例会ごとに行われます。今定例会では16名の議員が質問を行いましたので、主なものの要旨を掲載いたします。なお、本文中の「見出し」及び「問」は、質問者自身が責任をもって作成したものです。

詳しい内容は、会議録(11月下旬発行予定)を議会事務局、児玉総合支所、はにぼんプラザ、図書館、公民館及び市議会ホームページで閲覧することができます。
<https://ssp.kaigiroku.net/tenant/honjo/pg/index.html>



ここがポイント! そこが聞きたい!!

用排水路の管理について

市議団きせき代表 榎田 平一郎

問 四十年前から農村部において土地改良が実施され農道や水路、用水の施設などが新たに作られた。その後地域の用排水組合による雑草などの管理がされてきたが、近年参加者が農業者でない方が多数となった。危険な機械作業や熱中症のリスクもあり、農道や大きな土手の崩れ、水路際の除草など管理分擔が必要と思う。自治体である本庄市と協議・調整の時期と思うが、市の考えを伺う。

答 用排水路の維持管理は、用排水組合や土地改良区の組合員の皆様が参加して行っています。草刈りなどの日常的管理行為は、国の多面的機能支払交付金を活用し、組合員のほか地区によっては自治会等と連携し地域全体で取り組んでいただいています。しかし、地域によっては、自力による活動が人手不足などの共通の課題のほか、様々な課題により用排水組合の存続が困難になってきた地区等もあります。あくまでも主体はその地区の組合の方々ですが、管轄する土地改良区や自治会の方々も今後の管理について話し合いの場を設けていくことも必要と考えています。現に自治会を中心に用排水組合と話し合いを始めた地区や用排水路の関係者、土地改良区役員、市と話し合いを始めようとしている地区もあります。市としても、地域に寄り添い、国の交付金制度も活用し地域での活動が継続できるように引き続き支援していきます。(農政課)

【その他の質問】
共和小学校周辺整備について
女堀川の改修予定と市の取り組みについて



用排水路と市道(旧農道)

七高祭の

昨年度の効果と評価、今年度の展望について

市議団大地代表 谷田 裕之

問 昨年度の七高祭は広報ほんじょう別冊版を市全域及び市内高校に配布され、まちな見かたをリデザインするというタイトルで掲載されたSNSで観光地や飲食を紹介。仮想空間で部活の紹介がされました。この効果について市はどう評価し市長としての感想をお答えください。今年度はどう望みを抱き展開を考えているのでしょうか。多額予算を割いて継続する意味も説明願います。

答 令和4年度七高祭は、高校生による「広報紙の制作」や「仮想空間での合同文化祭」などを行いました。この取組は全国的にも珍しく、各メディアを通じて、七高祭が広く周知され、この事業に取り組み本市を知っていたくださり組む本市となりました。高校生が制作した広報紙を読んだ方から「高校生の視点が新鮮でよかった」などの声があり、これまで当たり前に感じていたものが高校生にとつて魅力的であったという気づきが生まれた、そうした意味でもまちな見かたがリデザインされたと考えます。令和5年度七高祭は、高校生が本市の抱える課題について解決策を考える「課題解決型プログラム」と、はにぼんプラザを会場とした「合同文化祭」を開催します。他の自治体では経験することのできない本市の強みを活かした本事業を通じて将来の関係人口の創出に寄与するこの取組が継続し、これからの高校生と地域の皆さまとが良好な関係性を構築できるよう取り組んでいきます。(広報課)



広報ほんじょう別冊版及び関連記事

【その他の質問】
小学校のクラス編成について

再生可能エネルギー施設の現状と規制について

自由民主党 本庄クラブ代表 山口 豊

問 再生エネルギーとは、二酸化炭素の排出が少ないうえに枯渇することのないエネルギーとされており、災害リスクや景観、自然環境破壊や生態系などの懸念から、令和5年1月、市内において一定規模以上のエネルギー設備を設置する事業者に対し、法的拘束力のある条例の制定の要望書が児玉南地域自治会長連名で提出されましたが、本市の現在の規制、今後について伺います。

答 本市は、ゼロカーボンプシテイ宣言やエコタウン基本計画・実施計画により、太陽光発電システム補助制度等、再生可能エネルギー導入に積極的に取組を推進しているところです。一方で、再生可能エネルギー施設の建設をめぐる、全国的には騒音や臭気等の課題が多い施設や自然災害リスクなど、施設と住環境の保全の間で様々な課題が発生していることも認識しています。市では本年3月、本庄市太陽光発電施設の設置に関するガイドラインを改定し、今年度は地球温暖化対策の目標を定める本庄市再生可能エネルギー導入目標及び本庄市地球温暖化対策実行計画を策定中です。市の再生可能エネルギー導入の方向性は太陽光発電の建物の屋根等への普及と環境への影響を回避低減し、調和を図るといふものです。当該施設について自然環境や市民生活を守り次世代へつなげるため、適正な事業実施がされるよう法的拘束力を持つ条例制定の検討を進めます。(環境推進課)

【その他の質問】
屋外体育施設について
イベント時における交通手段について



市内の太陽光予定地

「選ばれる街」について

公明党代表 清水 静子

問 住みたい街、住み続けたい街へ、若い世代に焦点を当てて伺う。結婚支援として、県の婚活事業「恋たま」の料金支援や欧米のよなシビルウエディング、「届け出挙式」など市議会の議場や市役所市民ホール、秋はマリーゴールドの丘などで市民の皆様と一緒に結婚式を祝うのはどうか。子育て支援として、出産後の仕事復帰のために0歳から2歳の保育料支援は必要と考えるがどうか。

答 恋たまの利用登録料は本市にお住まいの方については割引が受けられ、2年間で1万1千円です。また、紹介料や成婚料といった追加の料金はかからず、利用しやすい料金設定であると認識しています。地域で結婚をお祝いするなど、幸せの聖地としてはどうかというご提案についてですが、現在も旧本庄商業銀行煉瓦倉庫での結婚式の実施や、

若泉公園でのスナップ写真撮影の事例も聞いており、これが大いに歓迎すべきことだと思います。これからの出会いや結婚を希望する方をサポートする方法を研究していきます。保育料の負担軽減は子育て世代にとり大きな関心事であると承知していますが、市独自で保育料の無償化の対象を拡大することは継続的な財源の確保を含め慎重な検討が必要であると考えています。引き続き、国・県・市内自治体の取組や今後の動向等を注視しながら、総合的な観点から調査研究をしていきます。(企画課・保育課)

【その他の質問】
子宮頸がん撲滅の取組について
男性トイレのサニタリーボックスについて



本庄駅北口周辺整備 基本計画の推進について

市議団未来代表 柿沼 光男

問 JR本庄駅北口地区は、本庄市の玄関口として栄え、それは賑やかで、風格のある街並みは市民の誇りでした。しかしながら、時代の流れで、街並みの変化、生活様式の変化に加え、少子高齢化による人口減少により徐々に衰退し、現在に至っております。このような中、現在、本庄市が進める「本庄駅北口周辺整備基本計画」の整備方針と事業の進捗状況について伺います。

答 北口周辺整備基本計画の基本方針は、駅前街路整備と道路整備の2つを事業の柱としています。

駅前街路整備のコンセプト「子ども達の声でにぎわい、全ての世代が安心して過ごせる空間づくり」を支える基本方針は、駅前ロータリーの再整備、玄関口としての機能導入と空間デザイン、今と未来を支える世代のための空間形成の3つです。令和4年度よ



本庄駅北口周辺整備基本計画

り北口駅前街路等の事業化に向けた検討に着手しました。道路整備の「まちの回遊を生む、歩いて暮らせる空間づくり」を支える基本方針は周辺地域や拠点間を結ぶ道路ネットワークの強化、居心地の良いウォークアブルなまちづくり、古き良きまちなみを活かしたまちの更新の3つです。令和4年度より北口のまちなかウォークアブル推進に向けた必要な調査に着手しました。それらの成果を踏まえ今年度は北口駅前街路等の整備構想やまちなかにおける人のための空間の在り方を検討しています。

北口地区の歴史を踏まえ、未来に向かって持続可能な夢のあるエリアとなるようご協力を得ながら進めていきます。(市街地整備室)

新田原通り線 (通称南西交差点)への 信号機設置について

早野 清 (自由民主党 本庄クラブ)

問 北泉小けや木地区の全児童及び新田原稲田の杜四丁目地区児童、南中生徒の通学路であります。本庄総合病院に接する新田原通り線の南西交差点ですが、直線道路でありスピードを出す車両が多く、重大事故が起きかねません。また、児童・生徒・交通安全立哨活動の自治会役員等の安全・安心のため、信号機設置が必要不可欠だと思います。市として見解を伺います。

答 新田原通り線は、本庄総合病院南側を通る都市計画道路です。本庄総合病院南西側の交差点は、以前は新田原通り線側が一時停止規制となっていました。令和3年6月29日より新田原通り線と交差する南北の市道側を一時停止規制に変更となりました。この交差点に信号機は設置されていませんが、警察より横断歩道が設置され、



通称南西交差点

市では路面標示など注意喚起等を行っています。信号機の設置は、警察庁より「信号機設置の指針」が示されており、この指針に基づき、県の公安委員会が設置の可否を判断します。当該交差点への信号機設置の可否は、令和3年6月に要望書が提出されましたが、交通量が設置指針に満たなかったため、設置に至らなかったようです。信号機の設置は埼玉県公安委員会の判断となりますが、今後、新田原通り線の交通量が増加することは十分考えられますので、本市としても、当該交差点の交通安全対策について、関係機関との調整を図ってまいります。(危機管理課)

【その他の質問】 児玉南地域の活性化について

本庄市コンパクトシティに 向けた取組について

小賀野 健司(市議団未来)

問 本庄市は街中に様々な世代が住める居住の場をしっかりと確保し、多くの人が集う魅力的な空間とすることで街中の再生のみならず、本庄市に人を呼び込み、ひいては本庄市の定住人口の増大に繋げていく計画が立地適正化計画だとしているが、問題点をどう認識しているのか。市街地調整区域の現状をどう把握しているのか。具体的にまちづくりをどう進めようとしているのか伺う。

答 本市は、平成30年3月にコンパクトなまちづくりによる持続可能な都市の実現のため、本庄市立地適正化計画を策定しました。立地適正化計画の問題点は、持続可能なまちづくりに資する反面、将来的に居住誘導区域の内外での地域格差が生じてしまう懸念などがあります。市街地調整区域の現状ですが、都市計画基礎調査によると、平成12年10月から平成17



本庄市立地適正化計画

年10月では1938人の減少が見られましたが、直近の平成27年10月から令和2年10月では533人の増加に転じています。これは、平成17年に区域指定した都市計画法第34条第11号の運用が一定程度、市街地調整区域における人口減少の歯止めになっていいると考えられます。

人口減少社会を鑑みると、持続可能なまちづくりのため、コンパクトシティの推進は必要であると考えています。今後も、国等の政策動向を注視しながら市民の皆様のご意見を聞き取り、多様な世代が生き生きと暮らせる居住地の形成を目指していきます。(都市計画課)

【その他の質問】 本庄市へのAIの導入について

答 様々な理由からペットを飼うことが難しくなり、飼養義務の放棄や多頭飼育による環境問題など地域にとっても問題となることがあります。このような問題が発生する前に住民と行政が連携を図り、人と動物が共に住みやすい地域づくりに向けて、動物愛護の理解と関心を深めていくことが必要であると考

人と動物の共生を目指す 社会について

栗田 弘志(公明党)

問 動物は多くの人に愛される存在です。その一方で、動物の飼い方や関わり方について飼い主が病気や入院等で飼育放棄状態になると、地域の見守りの方などと市役所の担当課が地域連携して、埼玉県動物指導センターと連絡が取れる体制の仕組みの構築について伺います。また、環境保全条例の中に環境衛生の保持を図るネコ等の動物愛護及び管理に関する条例の制定について伺います。

様々な理由からペットを飼うことが難しくなり、飼養義務の放棄や多頭飼育による環境問題など地域にとっても問題となることがあります。このような問題が発生する前に住民と行政が連携を図り、人と動物が共に住みやすい地域づくりに向けて、動物愛護の理解と関心を深めていくことが必要であると考



【その他の質問】 環境推進課 広報紙の在り方について

かに埼玉県動物指導センターに繋げる仕組みができています。埼玉県動物指導センターでは、飼育に悩む飼い主の相談に対し指導を行っており、動物への愛護活動が維持されるよう飼育支援などの活動を行っています。市では、県の動物愛護啓発事業などの機会を通じ、飼い主への意識向上や地域の皆さまの動物愛護の関心や理解を深めていきます。ペットを飼う上でマナーを守ることは当然のことですが、守らない飼い主も存在しています。環境保全条例に議員ご提案の内容を追加することについては、先進自治体の取組や条例を研究し検討していきます。

本庄駅北口周辺 まちなかウォークアブルで 市が目指す未来は

内田 英亮(市議団大地)

問 魅力あるまちとして次世代に引き継ぐために、効果的に予算を使いビジョンをもってまちづくりをするべき。本庄駅北口のウォークアブルについて昨年度・今年度と委託業務が行われているが、既にイベントが開かれている銀座通りや三交通りで税金を使ってマーケットを開催する意義は、歩いて暮らせるまちを目指すならば食料品店・日用品店を充実させるべきでは。観光地を目指すのか。

答 本庄駅北口周辺整備基本方針、まちの回遊を生む、歩いて暮らせる空間づくりに向け、昨年度実施した本庄駅北口周辺まちなかウォークアブル推進調査業務を踏まえ、今年度は道路空間をにぎわいの空間として検証対象とする本庄駅北口周辺まちなかウォークアブルエリア等検討業務委託を進めています。その一環である銀座通り等



店と人で賑わう銀座通り(昭和54年頃)

【その他の質問】 災害時(河川洪水)浸水想定区域の住民への周知について

道路整備の現状及び今後の取り組みについて 林 富司(市議団未来)

問 街づくりの基本は道路網の整備にあると考えています。本庄早稲田駅周辺を見ても明らかです。市道第140号線は主要道路として地域自治会の要望もあり現道を拡幅し片側一車線の道路として整備が進められていますが未だ完成していません。その要因は何か。また、市道第140号線は必要不可欠な道路です。残る建設予定の区間はいつ着工し何年間で完成するのかお聞かせください。

答 市道第140号線は、国道17号の鶴森交差点付近から北へ向かい、県道本庄妻沼線と交差し、元小山川を越え、仁手地区と小和瀬地区の中間付近の市道第108号線までを結ぶルートとなっています。現在、市道第3170号線、いわゆる農免道路から南側の区間は完成形での整備が完了しています。農免道路から北側は、令和2年度に水路まで



市道第140号線

【その他の質問】
・要介護者の支援体制について

の90メートルの区間を、区画線、ガードレール及び視線誘導などの安全対策を行いつつ、暫定形の整備を実施し、現在に至っています。
ご質問の市道第140号線が中止されている理由については、農免道路北側の水路以北の整備は、国道17号本庄道路のII期区間の事業進捗を見据え、想定される交通需要の変化などの諸条件の検討を重ね、地元自治会や地域の皆様のご意見を確認しながら、具体的な整備方針を検討していくものです。
今後とも引き続き、地元の皆様のご協力をいただきながら、着実に事業を進めていきます。
(道路整備課)

小規模特認校の通学について 矢野間 規(市議団きせき)

問 開始から4年が経過した小規模特認校制度。これまで8名の児童が制度を利用しており、一定の評価を受けているが、入学、転入の条件の一つとして、「通学にあたっては保護者の責任において通学させること」とあり、入学、転入に大きな弊害であると考える。そこで、はにぼん号をチャーターすることで、制度の利用促進につながるかと考えるが、市の見解を伺う。

答 小規模特認校制度は、小規模ならではの環境で学びたい、子供を学ばせたいという児童と保護者に、通常の学区ではなく、一定の条件のもとで市内全域から入学を認める制度です。本市では仁手小学校を平成31年度より指定しています。
現在、制度を利用し、仁手小学校へ通学している児童は全員保護者による送迎で通学していますが、制度では、通学方法を保護者の送迎に限定



はにぼん号

【その他の質問】
・小中学校の通学区域について

している訳ではなく、例えばデマンドバスやタクシーを自ら予約し、保護者の責任において利用することも可能としています。通学方法については、仁手小学校の学校運営協議会やPTAの皆様からご意見を伺っており、教育委員会としても保護者による送迎以外の方法が可能かどうか研究しているところです。
はにぼん号をチャーターすることについては、所管課とも協議しましたが、デマンドバスは利用者が予め予約し、利用するものであり、貸し切りバスのような性質を持ち合わせていないため、現状では難しいと考えています。
(学校教育課)

本庄市の公共の樹木について 山田 康博(市議団きせき)

問 令和3年「本庄市緑の基本計画」策定に続き、令和6年よりの「森林環境税」、近年急激な環境変化・防災減災・CO2削減などは緑化、環境保全に舵をきっていく中、本市の樹木に対する管理体制そして方向性が問われている。本庄早稲田駅南口ロータリーのアカマツに象徴されるように、各所で老朽化が進む中、今後どのような基準や判断で剪定・伐採を行っていくのか見解を伺う。

答 本市では、緑の基本計画に基づき、緑が持つ多様な機能を私たちの暮らしに活かし、その恩恵を享受できる豊かなまちを将来世代に引き継いでいくため、市民の皆さまや団体、民間事業者とともに取り組んでいます。
樹木を伐採するか、樹勢回復に努めるのかをどのように判断しているのかについて、都市公園については、指定管理者がその専門的な知見に基



本庄早稲田駅南口ロータリーのアカマツ

【その他の質問】
・新規取得した公有財産の利活用について

づき、伐採か樹勢回復に努めるか判断しています。段丘斜面林や駅前広場については、委託業者と相談の上、判断しています。なお、病気や老朽化等で枯れが進行した樹木については、直ちに伐採は行わず、まずは栄養剤等の薬剤で樹勢回復に努めています。また、落ち葉等の樹木に関する苦情があった場合には、倒木による危険の排除等、管理上やむを得ない場合のみ伐採することとしています。今後の樹木等の管理の考え方が、引き続き緑の基本計画に基づき、地域の環境特性等を十分に考慮し、必要量の緑を適切に管理保全していきます。
(都市計画課)

本庄市の学校図書館について 巴 高志(市議団きせき)

問 文科省は2021年学級数や学校種別に応じた蔵書数の目標「学校図書館図書標準」の公立学校の達成率を公表しましたが、地域差が非常に大きくその達成率は、最高100%から最低15%になりました。子どもたちが通学する学校の差により図書の充実の格差が生まれるのは問題です。本市の各学校の図書整備について現状と課題についてお聞かせ下さい。

答 現在、市内の小中学校で学校図書館図書標準を上回り、蔵書の選定については、司書教諭を中心に児童生徒や教職員の意見を取り入れながら行っています。引き続き計画的な図書の購入等により蔵書の維持及び充実を図ります。魅力ある学校図書館づくりとして図書委員会による利用や貸出しができる体制を整えているほか、机や椅子、蔵書



学校図書館(北泉小学校)

【その他の質問】
・自転車用ヘルメット購入に対する補助事業について

の配置、イベント開催等各学校で様々な工夫をしています。さらに令和3年度より学校図書館支援員を配置し運営の改善と向上に努めています。活用方法として各教科の授業での積極的な活用や国語科などの学習を通じて利用の仕方等の指導をしています。授業以外での読書活動では、各学校が工夫しながら年間を通して読書活動を推進しており、各校とも学校図書館の適正な管理運営と利用拡大に向けた取組を行っています。
本を大切にし、読書好きの児童生徒を育てるため、今後とも学校図書館の充実に向けて取り組んでいきます。
(学校教育課)

本庄市独自の子ども対策について 倉林 益代(市議団きせき)

問 「三つ子の魂百まで」一心が育つ大事な時期、一歳児の保育士配置基準を園児3人に対し、保育士1人にする。学力低下・発達障害・不登校・ヤングケアラー・虐待等教育界の多くの課題を解決するための第一歩、先生方が子ども達一人一人にしっかりと向き合える小中学校30人学級を実現すること。全国に先駆けて、本庄市独自の子ども達を手厚く見守る体制を整えることについて伺う。

答 保育士の国の配置基準は保育士1人当たり1、2歳児は6人となっています。本市の配置基準は国よりも手厚く、市内の保育施設では全ての園が1歳児4人に対し保育士1人以上の配置となっています。子供の心身の発達においては、さらに多くの保育士等の目が行き届く環境が望ましいことは認識しています。保育士の配置基準については、保育士不足の状況



心を育てる保育

【その他の質問】
・新規就農者研修について

も考慮しつつ、今後の国の動向などを把握しながら調査研究をしています。
小中学校で30人学級を実現するためには、市独自で教員を採用し配置する必要があります。例えば令和5年度では、現在勤務している教員の人数に加えて、小学校で19名、中学校で15名を配置する必要があります。近年、教員不足が全国的に叫ばれており、人材確保は深刻な課題です。新たに配置する質の高い人材の確保、県費負担教職員との待遇面の均衡、市財政の負担などに大きな課題があり、市独自の取組として30人学級を実施することは現状では難しいと考えています。
(保育課・学校教育課)

公立小中学校体育館の 冷暖房設置について 門倉 道雄(市議団未来)

問 今夏は暑かった。本市小中学校体育館は、避難所、一部は投票所を兼ねている。埼玉県の体育館等空調設置率は12・0%、本市は0だ。緊急防災減災事業債は、返済方法が地方債充当率100%の場合、地方交付税措置は70%、自治体負担は30%で済む。総務省管轄で、空調設備と断熱処理は別々で良い。事業期間令和7年度まで、これを使い空調を設置すべきではないか。伺う。

答 本市の公立小中学校の学校体育館には、空調設備は設置していません。設置が進んでいない理由として、既存の学校体育館に空調設備を設置するには課題が多く、具体的には、学校体育館は窓などの開口部が多いため断熱性能が高くなく、効率的に空調設備を使用するためには、壁面や屋根などの大規模な改修が必要になります。文部科学省では、空調設備



【その他の質問】
・中学校部活動地域移行について

の設置に学校施設環境改善交付金において財政支援を行っています。これを活用するためには当該建物に断熱性があることが要件となり、「断熱性を確保するための工事と併せて空調設備を導入する場合」の経費についても補助対象となります。地方債では、緊急防災・減災事業債があり、これを活用すると断熱性能の確保は必要ありません。本市では、具体的に空調設備を設置するところまでは至っていませんが、整備手法などの情報収集を行うとともに、緊急防災・減災事業債の活用についてもその有用性について調査研究していきます。

(教育総務課)

マイナンバーカードを 巡り現行保険証が 廃止される問題で 柿沼 綾子(無党派)

問 マイナンバーカードが来年初には健康保険証になることが迫る中、医療や年金を始めとして不利益を被る事例が続出している。市のカードの取得状況、保険証と紐づけしている割合、カードの返納人数、医療機関でのトラブルなどについて伺う。また、カードを持たない人に発行される資格確認書の扱い、保険証廃止の撤回を求める議会や市長がいる自治体があるが、本市の姿勢を伺う。

答 8月末現在、本市のマイナンバーカードの保有枚数は52577枚で保有率は67・8%です。健康保険証と連携したマイナ保険証の登録状況は、7月時点で国民健康保険の被保険者が51・4%、後期高齢者医療の被保険者が41・1%となっています。自主返納の人数は、今年度の4月から8月までで合計7件です。また医療機関等からの問い合わせについては、

(市民課・保険課)



【その他の質問】
・生活保護世帯の現状について

国保、後期の被保険者では、これまでにマイナ保険証に関してトラブルに繋がったケースは何一つありません。資格確認書は、原則本人の申請に基づき交付するものとされていますが、当分の間、本人の申請によらず保険者が交付する運用とされたところ。市における具体的な事務手続きについては、詳細が示されましたら周知も含め速やかに対応していきます。市としては、保険証の廃止により被保険者が抱える不安を解消すること、保険診療を受けられないことがないよう努めることが重要であると考えています。

おもな案件② ◇市道路線の認定について

道路法第8条の規定に基づき、払い下げに伴い認定するもの1件、開発行為に伴い路線を短縮し再認定するもの1件など計4件について、市道路線を認定するものです。

◇令和5年度本市一般会計 補正予算(第4号)

埼玉県思いやり駐車場制度の優先駐車区画の整備による追加など、歳入歳出それぞれ5722万3000円を追加し、総額を歳入歳出それぞれ312億2782万6000円とするものです。

◇令和4年度一般・特別・企業会計歳入歳出決算認定について

地方自治法及び地方公営企業法の規定により、各会計の決算を議会の議決に付するものです。
一般会計の歳入決算額は342億7567万815円で前年度比1・6%の減。歳出決算額は314億1443万815円で前年度比0・5%の減です。

請願の審査結果

9月定例会では、請願1件を慎重審査しました。審査結果は次のとおりです。

〔採択〕

▽発達障害児に対する補助制度の見直しを求める意見書の提出を求める請願書

【提出者】

本庄市私立保育園園長会
代表者 根岸広幸氏

議員提出議案

9月定例会では、議員から2議案が提出され、原案のとおり可決しました。

◇本庄市議会基本条例の一部を改正する条例

本庄市議会基本条例に基づく見直し手続に伴い、規定の明確化等をするための条例改正です。

◇発達障害児に対する補助制度の見直しを求める意見書(要約)

本市では、発達障害児に対する保育士等の加配を行うため、民間保育所等に対し補助金を交付しており、発達障害

市民生活の便利化

9月定例会における各委員会の審査内容について主なものを紹介します。

◇総務常任委員会

○第56号議案
令和5年度本市一般会計補正予算(第4号)
事務ICT化事業について、業務用チャットツールの使い勝手の検証などについて質疑しました。付託議案2件について、いずれも可決すべきものと決しました。



◇建設産業常任委員会

○第56号議案
令和5年度本市一般会計補正予算(第4号)
クビアカツヤカミキリに対する薬剤の効果の持続期間などについて質疑しました。付託議案6件について、すべて可決すべきものと決しました。



◇厚生文教常任委員会

○第56号議案
令和5年度本市一般会計補正予算(第4号)
保育所等物価高騰対策補助金の対象となる児童クラブなどについて質疑しました。付託議案3件について、すべて可決すべきものと決しました。また、付託請願1件について、採択すべきものと決しました。

◇17号バイパス及び幹線道路整備対策特別委員会

国道17号バイパス本庄道路の早期整備を図るため、財務省及び国土交通省を訪問し、要望活動を行いました。

◇交通政策及び観光政策特別委員会

籠原駅以北までの15両編成列車の延伸、八高線にサイクルトレインやSL等の臨時列車を運行することなど、JR東日本高崎支社へ要望活動を行いました。

◇決算特別委員会を設置しました

9月定例会最終日に、令和4年度決算認定の6議案が提出されたことに伴い、決算特別委員会を設置しました。昨年同様、専門性を生かした議案審査とするため、常任委員会の構成を踏まえた3つの分科会を設けました。
決算特別委員会の構成は次のとおりです。

【決算特別委員会】

委員長 清水 静子
副委員長 矢野間 規

・総務分科会

○清水 静子 ○門倉 道雄
○小賀野健司 ○巴 高志
○広瀬 伸一 ○高橋 和美

・建設産業分科会

○榎田平一郎 ○山田 康博
○山口 豊 ○堀口伊代子
○柿沼 綾子 ○林 富司

・厚生文教分科会

○矢野間 規 ○谷田 裕之
○栗田 弘志 ○倉林 益代
○内田 英亮 ○柿沼 光男
○小林 猛 ○印 分科会委員長、○印 分科会副委員長)

